

7²⁰²⁶
Jul

KAN No. 244



伝統と革新の
神埼総めん

特集

神埼の麺文化を次世代へ 神埼そうめん協同組合の挑戦

今から約390年前、長崎街道・神埼宿で倒れた一人の僧を地元の人々が手厚く看病しました。感謝した僧が伝えたといわれる手延べそうめんの製法は受け継がれ、機械式製麺の誕生を経て、神埼を代表する伝統食品「神埼そうめん」となりました。そして今、その歴史と価値を次の世代へつなぐと活動する神埼そうめん協同組合。今回は、協同組合の4者が集い、それぞれの歩みや神埼そうめんへの熱い想いを語り合いました。



皆さんにとって 神埼そうめんとはどんなものか

井上さん：一番の特徴は、手延べそうめんの技術を礎としながら、390年の歴史を脈々と受け継いでいることだと思います。約110年前、真崎照郷さんが日本で初めて機械式製麺を発明しました。当初は手延べと機械が混在していて、おいしいそうめんが作れるからこそ機械が広まっていったんです。単に機械任せではなく、人が機械を使いこなし、改良を重ねてきた。それが神埼そうめんの歴史の肝だと思います。

中原さん：神埼は昔から小麦の産地であり、城原川をはじめとする水運にも恵まれていました。保存が効く乾麺は遠くまで運べる食品ですから、広い地域へ出荷されていたんです。地域の自然や交通の発展とともに育ってきた産業なんですよ。

古賀さん：神埼そうめんは、他の産地と違って「こう作らなければならない」という決まりがないんです。それぞれの事業者が自分たちのおいしいと思う小麦を使って、時代に合わせて工夫しながら麺づくりを続けてきた。そこも神埼らしさだと思います。

受け継がれる技術

中原さん：親父はあまり言葉で教えてくれませんでした。習うよりも現場で経験しながら覚えていった感じですね。

重松さん：製造の中でも特に難しいのが乾燥で。乾麺って大したことないと思われがちですが、これが本当に大変なんです。見た目は乾いていても中に水分が残っていることがあって、そうすると茹でたときに麺が割れてしまう。乾燥の仕方ひとつで品質が大きく変わります。職人さんからは「人間が汗をかくように乾燥させなさい」と教わりました。

古賀さん：田植えがはじまると、田んぼの湿度で乾き具合が変わることもありますね。

中原さん：北風が吹くと麺が乾燥したり、夕立を期待したり。昔の乾燥工程は、「今日の洗濯物、どうしようか」と考えるのとあまり変わらなかったです。今でも天気の影響は受けますし、自然と向き合う難しさは昔と変わりません。





麵をこね合わせる様子(中原製麺工場)

地域にとって「神埼そうめん」とは

中原さん：農作業で忙しい時期などに、そうめんをゆがいて濡れ布巾をかけて「各々好きな時に食べてね」と置いておく。そういう時代があったんです。暮らしの中に自然と溶け込んでいた食べ物でしたよね。

古賀さん：昔は九州各地で神埼そうめんの名前が知られていました。でも今は若い世代を中心に知らない人が増えています。だからこそ、小学校でそうめんの製法や歴史を伝える活動をしています。まず地元の人に知ってもらうことが大事ですから。

重松さん：子どもの頃は、夏になると各家庭に神埼そうめんが箱ごとどっさりとなるのが日常でした。でも生活スタイルが変わり、外食する人も増える中で、神埼そうめんに出会う機会がなかなかない。だからこそ、もう一度知ってもらいたいんです。

麵文化を次世代へ 「神埼『総』めん宣言」の発表



2026年3月に神埼そうめん協同組合と神崎市、佐賀県、RYO-FU BASEが同宣言を発表しました。神埼そうめんだけでなく、機械式で製造された多様な麵の文化を「神埼『総』めん」として再定義し、産業・地域・人の総力で500年ブランドへ再起動することを決意しました。

重松さん：正直、最初は不安でした。でも1年かけて話し合いを重ね、ロゴや「神埼『総』めん」というブランドができあがりました。不安が、今は大きな期待に変わっています。神崎市民の皆さんに「すごいじゃん！」と思ってもらえたら。神崎のコンビニで売っているそうめんも、今は他の産地のものなんです。ここは神埼そうめんを使ってもらいたい。それくらいの気持ちでやっています。

井上さん：神埼そうめんは知っていても、どこで食べ



神埼『総』めん宣言発表

有限会社井上製麺

代表取締役
井上 義博さん

明治6年創業。「神の白糸」のブランド名で知られる。佐賀県産を中心とし国産小麦100%に井戸水を使用し、独自の神シリーズも展開。「食べておいしいと思えるかどうか」を大切に、常に自分の舌で品質を確かめながら麺づくりを続けている。



有限会社中原製麺工場

代表取締役
中原 浩一郎さん

明治・大正期からの機械製麺の賞状が今も残る。そうめん・冷麦・うどん・ラーメン・ちゃんぽんなど幅広い麵を製造し、代表商品は神埼そうめん「友白髪」とラーメン「金龍」。丁寧な麵をモットーに麵作りに取り組んでいる。





神埼『総』めんの商品ラインナップ

られるのか、どこで買えるのかが分かりにくかった。そのためは、神埼そうめんを沢山のの人に知ってもらうことが大事だと思ったんです。

古賀さん：そうめん流しのイベントなど、一社ではできないことも、みんなで力を合わせれば実現できます。地道に続けていくことが大事だと思っています。

神埼『総』めんのこれから

古賀さん：これだけ多彩な食があふれる時代ですから、そうめんの食べ方の幅を広げたい。野菜や豚しゃぶを乗せてドレッシングをかけるだけで、アジアンにもイタリアンにもなる。おいしさの追求を続けて、沢山の



有限会社古賀製麺



運営統括責任者
古賀 義宏さん

創業100年余。佐賀県産小麦をブレンドして使用し、自社工場で100日以上熟成させることでコシのある麺に仕上げる。「おいしさと安全の追求」を信念に、そうめんのアレンジレシピなども発信している。

ヤクルト食品工業株式会社



取締役
重松 正和さん

ヤクルトグループの一員として神埼そうめんを全国へ届ける。「佐賀の神埼」シリーズをはじめ、うどん・ラーメン・そばなど幅広い商品を製造。品質の安定を大切にしながら、いつでも同じおいしさを届けることができるよう取り組んでいる。

人に発信することで神埼そうめんをさらに普及させたいと思います。

重松さん：「神埼『総』めん」として概念が広がったからこそ、これまでにない新しい商品づくりにも挑戦できる。そこが楽しみです。

中原さん：春夏秋冬、いつでも食べていただける麺にしていきたいですね。神埼のそうめんはいつ食べてもおいしい、夏場は特においしい。沢山の人たちに広まっていけばと思います。

井上さん：『総』という言葉には、神埼の麺文化をまるごと背負える力があると思っています。4事業者で競い合うより、産地ごと盛り上げていく方が神埼のためになる。390年続いてきた歴史を500年、その先へとつないでいく。それが私たちの使命であり、願いです。

5/20

花と笑顔いっぱいの町に！ 「花いっぱいせふり」

脊振支所で「花いっぱいせふり」の交流事業がありました。

今回も脊振小・中の児童、生徒やせふり保育園の園児も参加、子どもから高齢者まで約70人が協力して、マリーゴールドやトレニアなどの季節の花苗400本をプランターに植栽、支所周辺の県道沿いに設置しました。

事業は脊振学園や市社会福祉協議会、老人クラブなどが中心になり、毎年、春と秋の2回行われ「笑顔いっぱい」の交流事業になっています。



5/20

来季への決意新たに！ 佐賀ブルーナースが表敬訪問

市と連携協定を結んでいるプロバスケットボールチーム「佐賀ブルーナース」の田畠寿太郎代表取締役社長、阿部諒選手、富山仁貴選手が市長を表敬訪問しました。

訪問では、今シーズンの活動や試合を振り返るとともに、来シーズンに向けたチームの展望について報告がありました。

市長は「今シーズンも多くの感動をありがとうございました。来シーズンのさらなる活躍を期待しています」と激励の言葉を贈りました。



5/21・25

地域課題の解決に向けて！ 神埼高校で探究学習プロジェクト

5月21日、神埼高校で行われている「地域課題の解決に向けた探究学習プロジェクト」で、2年生約90人が市職員から子育て支援や観光などに関する神埼市の現状や課題について学びました。

5月25日には、生徒たちが希望する分野ごとに分かれ、担当部署の市職員と意見交換を行いました。今後、生徒たちは地域課題の解決に向け、高校生ならではの視点を活かした提案づくりに取り組めます。



5/23

佐賀整肢学園・かんざき日の隈寮 「春まつり」

佐賀整肢学園・かんざき日の隈寮で「春まつり」が開かれました。77人の利用者のほか、地域の人たちも大勢参加し、多彩なプログラムで盛り上がりしました。

地域との交流を通じて施設への理解を深めてもらおうと行っている恒例行事。吉野ヶ里バンブーオーケストラや日本舞踊藤間流静浄会、小桜こども園の園児たちなど、近郊からも来演しました。

日の隈寮日舞クラブは大島毅施設長も加わり「きよしのズンドコ節」などで楽しい踊りを披露。派手な衣装に身を包んだ職員のパフォーマンスもあり、盛んな声援が飛んでいました。



6/3

仁比山少年野球クラブ 初の全国大会出場で市長を表敬訪問

仁比山少年野球クラブが、初の全国大会出場を報告するため市長を表敬訪問しました。

同クラブは県大会を勝ち抜き、クラブ創設以来初となる全国大会への切符を獲得。訪れた選手たちは一人ひとり自己紹介をし「ヒットで塁に出る」「守備でチームに貢献したい」など目標や意気込みを話しました。市長は「最後まで諦めず、自分たちの力を信じて頑張ってください」と激励の言葉を贈りました。



6/3

野村萬斎狂言 20周年記念事業で公演

「野村萬斎狂言公演」が千代田文化会館はんぎーホールで行われました。

神埼市合併20周年と千代田文化会館開館20周年の記念事業で、重要無形文化財総合指定者で狂言の第一人者・野村萬斎さんが3年ぶりに来演しました。

野村さんは「20周年でおめでたい演目を選ばせていただいた」として、小舞「八島」と、狂言の「蝸牛」と「二人袴」を紹介。設定やストーリーを解説して「結末は見てのお楽しみでございます」と呼びかけました。

「二人袴」では長男・裕基さんと親子の役で共演。リズミカルなせりふ回しや歌舞を含む美しい所作で熱演し、満席の会場を沸かせました。

